



P1/P2-P5945GC

ASUS PC (デスクトップ ベアボーン)

ユーザーマニュアル



J3310

初版第 1 刷

2007年12月

Copyright © 2007 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

- (1)ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2)製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容に変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

ご注意	vi
安全上のご注意	vii
このマニュアルについて.....	viii
パッケージの内容.....	x

Chapter 1: システムの概要

1.1 ようこそ	1-2
1.2 フロントパネル	1-2
1.3 バックパネル	1-4
1.4 内部コンポーネント	1-6

Chapter 2: 基本取り付け

2.1 準備	2-2
2.2 始める前に	2-2
2.3 ケースカバーとフロントパネルカバーを取り外す	2-3
2.4 CPU	2-4
2.4.1 概要	2-4
2.4.2 ストレージドライブ取り付け用ケージを取り外す	2-4
2.4.3 CPU を取り付ける.....	2-4
2.4.4 CPU のヒートシンクとファンを取り外す/取り付け.....	2-6
2.5 メモリを取り付ける.....	2-7
2.5.1 メモリ構成.....	2-7
2.5.2 DDR2 メモリを取り付ける	2-10
2.5.3 DDR2 メモリを取り外す	2-10
2.6 拡張スロット	2-11
2.6.1 PCI スロット.....	2-11
2.6.2 拡張カードの取り付け	2-11
2.7 光学ドライブ /ストレージドライブ取り付け用ケージを取り付ける	2-14
2.8 フットスタンドを取り付ける.....	2-16
2.9 フロントパネルカバーを取り付ける	2-17
2.10 ケースカバーを取り付ける.....	2-18

もくじ

Chapter 3: 起動

3.1	OSをインストールする.....	3-2
3.2	電源をオンにする	3-2
3.3	サポート CD 情報	3-2
3.3.1	サポート CD を実行する.....	3-3
3.3.2	ユーティリティメニュー	3-4
3.3.3	コンタクトインフォメーション	3-5
3.4	ソフトウェア情報.....	3-6

Chapter 4: マザーボード情報

4.1	概要	4-2
4.2	マザーボードのレイアウト	4-2
4.3	ジャンパ	4-3
4.4	コネクタ.....	4-5

Chapter 5: BIOS のセットアップ

5.1	BIOS 管理更新	5-2
5.1.1	ASUS EZ Flash 2	5-2
5.1.2	AFUDOS	5-3
5.1.3	ASUS CrashFree BIOS 2	5-5
5.1.4	ASUS Update	5-7
5.2	BIOS 設定プログラム	5-10
5.2.1	BIOS メニュー画面.....	5-11
5.2.2	メニューバー	5-11
5.2.3	ナビゲーションキー	5-11
5.2.4	メニュー	5-12
5.2.5	サブメニュー	5-12
5.2.6	構成フィールド	5-12
5.2.7	ポップアップウィンドウ	5-12
5.2.8	スクロールバー	5-12
5.2.9	ヘルプ	5-12

もくじ

5.3	メインメニュー	5-13
5.3.1	System Time	5-13
5.3.2	System Date	5-13
5.3.3	プライマリ、サード IDE マスター /スレーブ	5-14
5.3.4	IDE Configuration	5-15
5.3.5	システム情報	5-17
5.4	拡張メニュー	5-18
5.4.1	JumperFree Configuration	5-18
5.4.2	USB 設定	5-19
5.4.3	CPU の設定	5-21
5.4.4	チップセット	5-23
5.4.5	オンボードデバイス設定構成	5-24
5.4.6	PCI PnP	5-26
5.5	電源メニュー	5-27
5.5.1	Suspend Mode	5-27
5.5.2	ACPI 2.0 Support	5-27
5.5.3	ACPI APIC Support	5-27
5.5.4	APM の設定	5-28
5.5.5	ハードウェアモニタ	5-30
5.6	ブートメニュー	5-31
5.6.1	ブートデバイスの優先順位	5-31
5.6.2	Removable Drives	5-31
5.6.3	起動設定	5-32
5.6.4	セキュリティ	5-33
5.7	終了メニュー	5-35

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



WARNING! The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Macrovision Corporation Product Notice

This product incorporates copyright protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights. Use of this copyright protection technology must be authorized by Macrovision, and is intended for home and other limited viewing uses only unless otherwise authorized by Macrovision. Reverse engineering or disassembly is prohibited.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。本製品は安定した場所に設置してください。
- 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

リチウムイオンバッテリー（警告）

CAUTION: Danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with the same or equivalent type recommended by the manufacturer. Dispose of used batteries according to the manufacturer's instructions.

VORSICHT: Explosionsgefahr bei unsachgemäßen Austausch der Batterie. Ersatz nur durch denselben oder einem vom Hersteller empfohlenem ähnlichen Typ. Entsorgung gebrauchter Batterien nach Angaben des Herstellers.

レーザー製品（警告）

クラス 1 レーザー製品

このマニュアルについて

対象読者

本書は、本製品に関する全般情報とインストールの指示について説明しています。本書は上級ユーザーを対象にしています。

本書の構成

本書は次の章から構成されています。

1. Chapter 1: システムの概要

本製品の概要。フロントパネルとバックパネル、および内部コンポーネントなどの、システムの各機能を紹介します。

2. Chapter 2: 基本取り付け

システムのコンポーネントを取り付ける方法の説明です。

3. Chapter 3: 起動

システムの電源を入れ、サポートCDからドライバやユーティリティをインストールする方法を説明します。

4. Chapter 4: マザーボード情報

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明です。

5. Chapter 5: BIOS のセットアップ

BIOS セットアップメニューでのシステム設定、変更方法、BIOS パラメータの説明です。

このマニュアルの表記について



危険/警告: 本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)

各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

パッケージの内容

P1/P2-P5945GC のパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店様にご連絡ください。

パッケージの内容

1. ASUS ブックサイズベアボーンシステムの付属品

- ASUS マザーボード
- 200W 電源装置
- PCI ライザーカード
- CPU ファンとヒートシンクアッセンブリー

2. ケーブル

- 電源コード
- Serial ATA ケーブル/ 信号ケーブル
- IDE ケーブル (コネクタに接続済み)

3. CD

- サポート CD
- リカバリ PRO CD (2000/XP のみに対応)

4. クイックセットアップガイド

Chapter 1

本製品の概要。フロントパネルとバックパネル、および内部コンポーネントなどの、システムの各機能を紹介



ASUS P1/P2-P5945GC

システムの概要

1.1 ようこそ

ASUS P1/P2-P5945GC をお買い上げいただき、ありがとうございます。

ASUS P1/P2-P5945GC は、用途の広いホームエンターテイメント機能を搭載したオールインワンベアボーンシステムです。

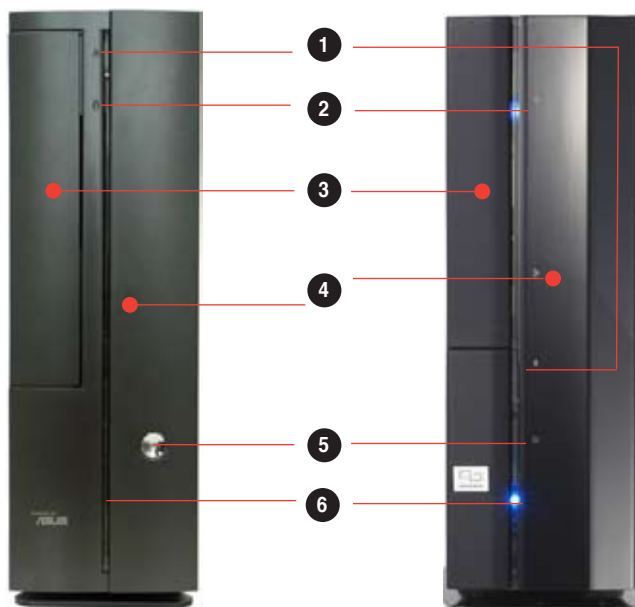
本製品は、スタイリッシュな ミニタワーケースに、775-land package 版 Intel® Pentium® D、Intel® Pentium® 4、Intel® Conroe®、Intel® Celeron® プロセッサをサポートするマザーボードを装備しています。

本製品は、DDR2-667/533/400 メモリを使用する 最大 4 GB のシステムメモリ、統合されたグラフィックコントローラによる高解像度のグラフィック、Serial ATA、USB 2.0、8 チャンネルオーディオ機能をサポートしており、トップクラスのパワーコンピューティングを実現します。

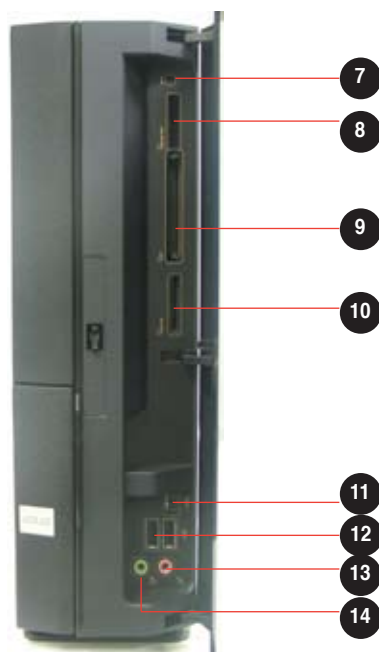
1.2 フロントパネル

フロントパネルには光学ドライブベイ、電源ボタン、I/O ポートが組み込まれています。

閉じた状態



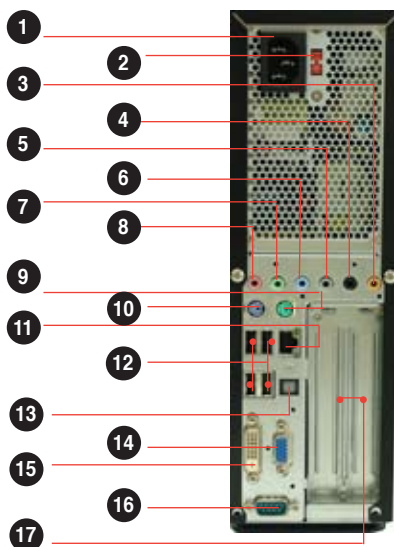
開けた状態



1. 光学ドライブイジェクトボタン
2. **HDD LED**:このLED はハードディスクドライブからのデータの読み込み/書き込み中に点灯します。
3. 光学ドライブベイカバー
4. 押すとフロントパネルカバーが開きます。
5. 電源ボタン:システムの電源をオンにします。
6. 電源 LED
7. リセットボタン
8. MS/MS Pro カードスロット
9. CompactFlash™ カードスロット
10. SD/MMC カードスロット
11. 4 ピン IEEE 1394 ポート
12. **USB 2.0 ポート**:マウス、プリンタ、スキャナー、カメラ、PDA等の USB 2.0 対応デバイスを接続することができます。
13. **マイクポート (ピンク)**:マイクを接続します。
14. **ヘッドホンポート (ライム)**:ヘッドフォン、スピーカーを接続します。

1.3 バックパネル

電源コネクタとI/O ポートが搭載されており、各デバイスを簡単に接続することができます。



警告!
230 V のエリアで 115 V を
選択した場合、または 115
のエリアで 230V を選択し
た場合、システムの故障の
原因となります!

1. 電源コネクタ
2. 電圧セクター：お使いのエリアの供給電圧に応じ、システム入力電圧を選択することができます。お使いのエリアの電圧が 100-127 V の場合は、115 V を選択します。200-240 V の場合は、230 V を選択します。日本の電源電圧は 100 V ですの、115 V を選択してください。
3. センター/サブウーファポート（イエローオレンジ）：センター/サブウーファスピーカーを接続します。
4. サラウンドサイドポート（ブラック）：8 チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。
5. サラウンドリアポート（グレイ）：4/6/8 チャンネルオーディオ構成でリアスピーカーを接続します。
6. ライン入力ポート（ライトブルー）：テープ、CD、DVD プレーヤーや他のオーディオソースを接続します。
7. ライン出力ポート（ライム）：ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4/6 チャンネルモードでは、このポートはフロントスピーカー出力になります。
8. マイクポート（ピンク）：マイクを接続します。
9. PS/2 マウスポート（グリーン）：PS/2 マウス用です。
10. PS/2 キーボードポート（パープル）：PS/2 キーボード用です。

11. **LAN (RJ-45) ポート**: ネットワークハブを介し、LAN に Gigabit 接続することができます。
12. **USB 2.0 ポート 1, 2, 3, 4**: マウス、プリンタ、スキャナー、カメラ、PDA等の USB 2.0 対応デバイスを接続することができます。
13. **SPDIF 出力ポート**: 光デジタル S/PDIF ケーブルを経由して外付けオーディオ出力デバイスを接続します。
14. **VGA ポート**
15. **DVI-D ポート**
16. **Serial ポート**
17. **PCI スロットメタルブラケット**



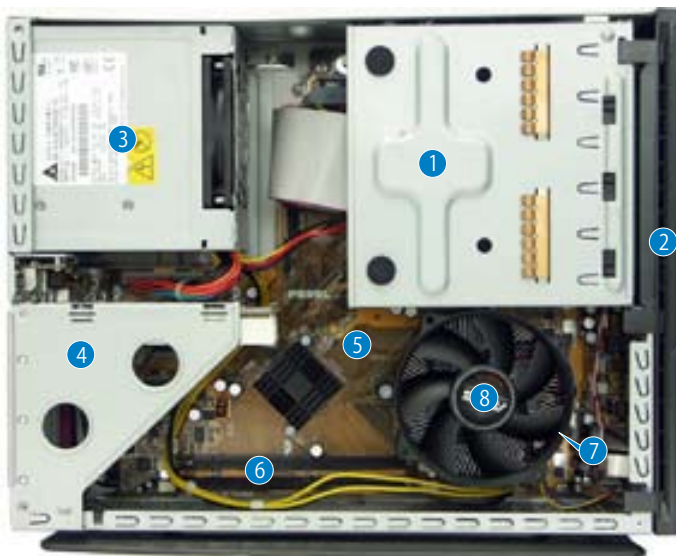
2/4/6 チャンネル構成のオーディオポートの機能の変化に関しては以下の表を参照ください。

オーディオ 2/4/6/8 チャンネル構成

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
グレイ	•	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
ブラック	•	•	•	サイドスピーカー 出力
イエロー/オレンジ	•	•	センター/ サブウーファ	センター/ サブウーファ

1.4 内部コンポーネント

下の図は、トップカバーを取り外した時の内部構造です。取り付けるコンポーネントには、参照用に番号を表示しました。追加システムコンポーネントの取り付けに関する詳細は、Chapter2 をご覧ください。



- | | |
|--|--|
| 1. 5.25 インチ光学ドライブと 3.5 インチハードディスクドライブケージ | 5. ASUS マザーボード |
| 2. フロントパネルカバー | 6. メモリスロット |
| 3. 電源装置 | 7. LGA775 ソケット (CPU ファンとヒートシンクアッセンブリーの下) |
| 4. PCI カードライザーブラケット (マザーボード PCI スロットに接続) | 8. CPU ファンとヒートシンクアッセンブリー |

Chapter 2

システムのコンポーネントを取り付ける方法について



ASUS P1/P2-P5945GC

基本取り付け

2.1 準備

取り付ける前に、全てのコンポーネントが揃っているか確認してください。

取り付ける基本コンポーネント

1. CPU
2. DDR2 メモリ
3. 拡張カード
4. ハードディスクドライブ
5. 光学ドライブ

ツール

Phillips スクリュードライバ

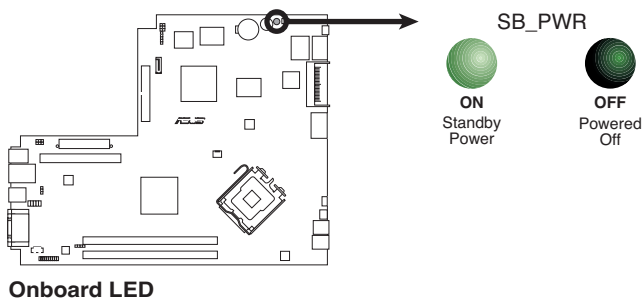
2.2 始める前に

コンポーネントをシステムに取り付ける前に次の事項に留意してください。



- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置か、コンポーネントに付属する袋に入れてください。

マザーボードにはスタンバイ LED が搭載されており、電力が供給されている間は緑の LED が点灯します。マザーボードに各パーツを取り付け・取り外しを行う際は、システムを OFF にし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボード LED の場所を示しています。



2.3 ケースカバーとフロントパネルカバーを取り外す

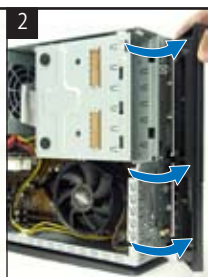
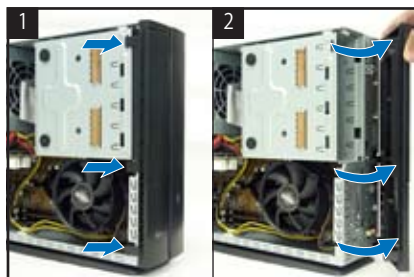
ケースカバーを取り外す手順

1. ケースカバー用ネジを取り外します。ネジは大切に保管してください。
2. ケースカバーをバックパネルの方向に少し引きます。
3. ケースカバーを持ち上げ、取り外します。



フロントパネルカバーを取り外す手順

1. フロントパネルカバーフックを外側に引いて外します。
2. フロントパネルカバーを慎重に取り外します。



2.4 CPU

2.4.1 概要

本マザーボードには 775-land package 版 Intel® Pentium® D、Intel® Pentium® 4、Intel® Conroe®、Intel® Celeron® プロセッサ対応の LGA775 ソケットが搭載されています。



- マザーボードのご購入後すぐにソケットキャップがソケットに装着されていることと、ソケットの接触部分が曲がっていないかを確認してください。ソケットキャップが装着されていない場合や、ソケットキャップ/ソケット接触部/マザーボードのコンポーネントに不足やダメージが見つかった場合は、すぐに販売店までご連絡ください。不足やダメージが出荷及び運送が原因の場合に限り、ASUSは修理費を負担いたします。
- マザーボードを取り付けた後も、ソケットキャップを保存してください。ASUSは、このソケットキャップが装着されている場合にのみ、RMA（保証サービス）を受け付けます。
- 製品保証は、CPUやソケットキャップの間違った取り付け・取り外しや、ソケットキャップの紛失に起因する故障及び不具合には適用されません。

2.4.2 ストレージドライブ取り付け用ケージを取り外す

- システムを水平に置きます。ストレージドライブ取り付け用ケージのネジ（3本）を確認し、取り外します。
- ストレージドライブ取り付け用ケージを持ち上げ、取り外します。



2.4.3 CPU を取り付ける

手順

- マザーボードのCPUソケットの位置を確認します。

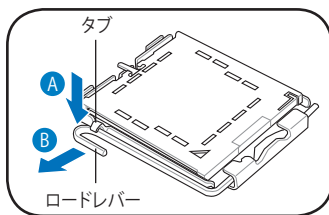


CPUを取り付ける前にCPUソケットを手前に向け、ロードレバーが向かって左側にあることを確認してください。

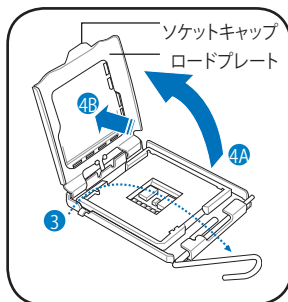
2. 親指でロードレバーを押し(A)、タブから外れるまで左に動かします(B)。



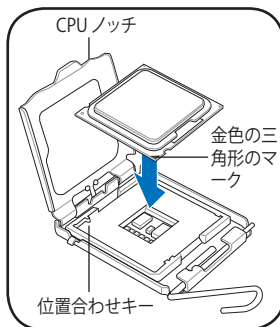
ソケットピンの損傷防止のため、ソケットキャップはCPUを取り付けるまで外さないでください。



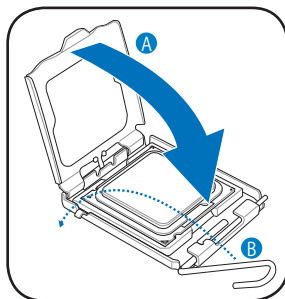
3. 矢印の方向に135° ほどロードレバーを持ち上げます。
4. ロードプレートを親指と人差し指で100° ほど持ち上げ(4A)、ロードプレートウィンドウからソケットキャップを押して取り外します (4B)。



5. CPU に書かれている金色の三角形がソケットの左下隅になるようにCPUをソケットの上に載せます。このとき、ソケットの位置合わせキーは、CPUの溝にぴったり合わせる必要があります。



6. ロードプレートを閉じ(A)、ロードレバー(B)がタブに収まるまで押します。



2.4.4 CPUのヒートシンクとファンを取り外す/取り付ける

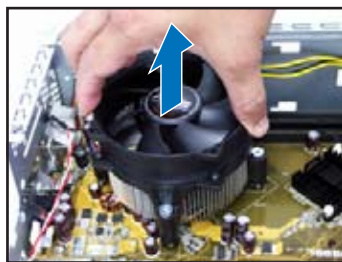
システムパッケージには、独自仕様の CPU ファンとヒートシンクアッセンブリーが含まれており、効率的な冷却を行い CPU パフォーマンスを引き出します。



CPU ファンとヒートシンクを他のモデルと交換しないでください!

CPU ファンとヒートシンクアッセンブリーを取り外す

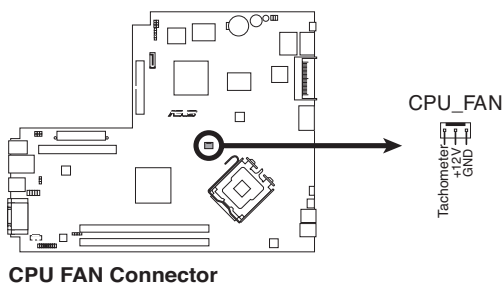
1. CPU ファンケーブルを取り外します。
2. CPU ファンとヒートシンクアッセンブリーのネジを弛めます。
3. CPU ファンとヒートシンクアッセンブリーを持ち上げ、脇に置きます。



CPU ファンとヒートシンクアッセンブリーを取り付ける

CPU ファンとヒートシンクアッセンブリーを再び取り付けます。次に、CPU ファンケーブルをマザーボードの CPU ファンコネクタに再び接続します。

マザーボード上の CPU ファンコネクタの位置に関しては下の図をご参照ください。

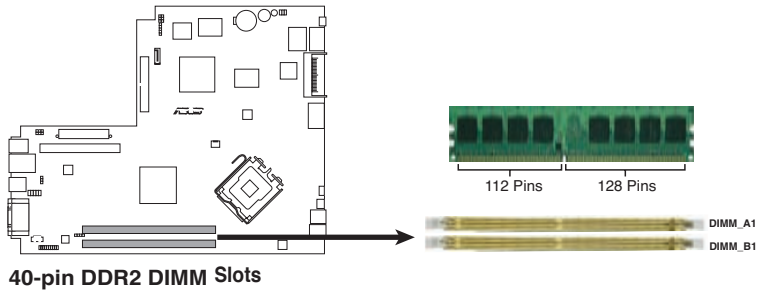


CPUファンのケーブルを必ず接続してください。ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。

2.5 メモリを取り付ける

本システムマザーボードには、DDR2 メモリスロットが 2 基搭載されています。

次の図は、スロットの場所を示しています。



2.5.1 メモリ構成

256 MB、512 MB、1 GB DDR2 メモリを使用して最大 2 GB のシステムメモリを取り付けることができます。



- **必ず同一の** (タイプとサイズが同じもの) DDR2 メモリを取り付けてください。
- ASUS が承認したメモリモジュールのみを取り付けてください。詳細は、次項の DDR2 メモリの QVL (推奨ベンダーリスト) をご参照ください。
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。

メモリのQVL(推奨ベンダーリスト)

DDR2-667

サイズ	ベンダー	モデル	サイド	コンポーネント	メモリスポート	
					A	B
256MB	Kingston	KVR667D2N5/256	SS	E2508AB-6E-E	v	v
256MB	Kingston	KVR667D2N5/256	SS	D3216TL SAK13U	v	v
256MB	Kingston	KVR667D2N5/256	SS	HYB18T256800AF3SW65 33154	v	v
512MB	Kingston	KVR667D2N5/512	SS	D6408TE8WL-27	v	v
512MB	Kingston	KVR667D2N5/512	SS	E5108AGBG-6E-E	v	v
1G	Kingston	KVR667D2N5/1G	DS	D6408TE8WL-3	v	v
1G	Kingston	KVR667D2N5/1G	DS	D6408TEBGL3U	v	v
1G	Kingston	KVR667D2N5/1G	DS	E5108AGBG-6E-E	v	v
512MB	Samsung	KR M378T6553CZ0-CE6	SS	K4T51083QC	v	v
512MB	Samsung	KR M378T6453FZ0-CE6	DS	K4T56083QF-ZCE6	v	v
512MB	Samsung	M378T6553CZ3-CE6	SS	K4T51083QC-ZCE6	v	v
1G	Samsung	M378T2953CZ3-CE6	DS	K4T51083QC-ZCE6	v	v
1G	Samsung	KR M378T2953CZ0-CE6	DS	K4T51083QC-ZCE6	v	v
256MB	Qimonda	HYS64T32000HU-3S-A	SS	HYB18T512160AF-3SSSS17310	v	v
512MB	Qimonda	HYS64T32000HU-3S-A	SS	HYB18T5128000AF-3SSSS27416	v	v
512MB	Qimonda	HYS64T64000HU-3S-A	SS	HYB18T512800AF3SFSS05346	v	v
1G	Qimonda	HYS64T128020HU-3S-A	DS	HYB18T512800AF3SSSS28104	v	v
512MB	Corsair	VS512MB667D2	SS	64M8CFEGPS0900647	v	v
512MB	Corsair	VS512MB667D2	DS	MII0052532M8CEC	v	v
1G	Corsair	VS1GB667D2	DS	MID095D62864M8CEC	v	v
1G	Corsair	XMS2-5400	DS	Heat-Sink Package	v	v
256MB	HY	HYMP532U64CP6-Y5 AB	SS	HY5PS121621CFP-Y5	v	v
512MB	HY	HYMP564U64AP8-Y4 AA	SS	HY5PS12821AFP-Y4	v	v
512MB	HY	HYMP564U64AP8-Y5 AA	SS	HY5PS12821AFP-Y5	v	v
1G	HY	HYMP512U64AP8-Y5 AB	DS	HY5PS12821AFP-Y5	v	v
1G	HY	HYMP512U64CP8-Y5 AB	DS	HY5PS12521CFP-Y5	v	v
512MB	Kingmax	KLCC28F-A8EB5	SS	E5108AE-6E-E	v	v
512MB	Kingmax	KLCC28F-A8KB5	SS	KKEA88B4LAUG-29DX	v	v
1G	Kingmax	KLCD48F-A8KB5	DS	KKEA88B4LAUG-29DX	v	v
512MB	Apacer	78.91092.420	SS	E5108AE-6E-E	v	v
512MB	Apacer	AU512E667C5KBGC	SS	AM4B5708MJS7E0627B	v	v
512MB	Apacer	AU512E667C5KBGC	SS	AM4B5708GQS7E06332F	v	v
1G	Apacer	AU01GE667C5KBGC	DS	AM4B5708GQS7E0636B	v	v
1G	Apacer	78.01092.420	DS	E5108AE-6E-E	v	v
1G	Apacer	AU01GE667C5KBGC	DS	AM4B5708MJS7E0627B	v	v
512MB	ADATA	M20EL5G3H3160B1C0Z	SS	E5108AE-6E-E	v	v
512MB	ADATA	M20AD5G3H316611C52	SS	AD29608A8A-3EG20648	v	v
512MB	ADATA	M20AD5G3H316611C52	SS	AD29608A8A-3EG20718	v	v
1G	ADATA	M20AD5G31417611C52	DS	AD29608A8A-3EG20645	v	v
512MB	VDATA	M2GVD5G3H31A411C52	SS	VD29608A8A-3EC20615	v	v
512MB	VDATA	M2YVD5G3H31P411C52	SS	VD29608A8A-3EG20627	v	v
512MB	VDATA	M2GVD5G3H16611C52	SS	VD29608A8A-3EG20637	v	v
1G	VDATA	M2GVD5G3141P611C52	DS	VD29608A8A-3EG20627	v	v
1G	VDATA	M2GVD5G3141C411C52	DS	VD29608A8A-3EC20620	v	v
1G	VDATA	M2GVD5G31417611C52	DS	VD29608A8A-3EG20641	v	v
512MB	PSC	AL6E8E63B-6E1K	SS	A3R12E3GEF637BLC5N	v	v
1G	PSC	AL7E8E63B-6E1K	DS	A3R12E3GEF637BLC5N	v	v
256MB	Nanya	NT256T64UH4A1FY-3C	SS	NT5TU32M16AG-3C	v	v
512MB	Nanya	NT512T64U88A1BY-3C	SS	NT5TU64M8AE-3C	v	v

DDR2-533

サイズ	ベンダー	モデル	サイド	コンポーネント	メモリサポート	
					A	B
512MB	Kingston	KVR533D2N4/512	SS	HYB18T512800AF373336550	v	v
1G	Kingston	KVR533D2N4/1G	DS	D6408TE7BL-37	v	v
256MB	Samsung	M378T3253FG0-CD5	SS	K4T56083QF-GCD5	v	v
512MB	Samsung	M378T6553BG0-CD5	SS	K4T51083QB-GCD5	v	v
256MB	Qimonda	HYS64T32000HU-3.7-A	SS	HYB18T512160AF-3.7AFSS31270	v	v
512MB	Qimonda	HYS64T64000GU-3.7-A	SS	HYB18T512800AC37SSS11511	v	v
512MB	Qimonda	HYS64T64000HU-3.7-A	SS	HYB18T512800AF37SSS12079	v	v
512MB	Qimonda	HYS64T64000HU-3.7-A	SS	HYB18T512800AF37FSS29334	v	v
256MB	HY	HYMP532U64CP6-C4 AB	SS	HY5PS121621CFP-C4	v	v
1G	HY	HYMP512U64CP8-C4 AB	DS	HY5PS12821CFP-C4	v	v
512MB	Micron	MT 16HTF6464AG-53EB2	DS	D9BOM	v	v
512MB	Micron	MT 16HTF6464AG-53EB2	DS	Z9BQT	v	v
1G	Micron	MT 16HTF12864AY-53EA1	DS	D9CRZ	v	v
512MB	Corsair	VS512MB533D2	DS	M1110052532M8CEC	v	v
512MB	Corsair	VS512MB533D2	DS	M1110052532M8CEC	v	v
1G	Corsair	VS1GB533D2	DS	64M8CFEGQIB0900718	v	v
512MB	Elpida	EBE51UD8ABFA-5C-E	SS	E5108AB-5C-E	v	v
512MB	Kingmax	KLBC28F-A8KB4	SS	KKEA88B4IAK-37	v	v
256MB	Kingmax	KLBB68F-36EP4	SS	E5116AB-5C-E	v	v
512MB	Kingmax	KLBC28F-A8EB4	SS	E5108AE-5C-E	v	v
512MB	ADATA	M20AD2G3H316611B52	SS	AD29608A8A-37DG20719	v	v
2G	ADATA	M20AD2H3J417011B53	DS	AD20908A8A-37DG30721	v	v

サイド: SS-シングルサイド DS-ダブルサイド

CL: CAS レイテンシ

メモリサポート

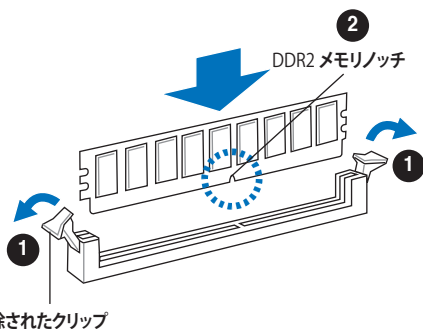
- A - シングルチャンネルメモリ構成として、1 枚のモジュールをどちらか一方のスロットに取り付けることが可能。
- B - 1 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2 枚 1 組のメモリを両方のスロットに取り付けることが可能。

2.5.2 DDR2 メモリを取り付ける



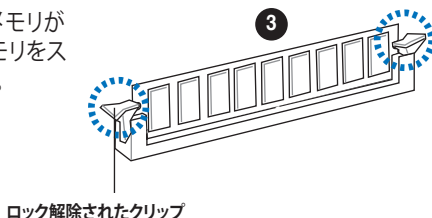
メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。



DDR2 メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。

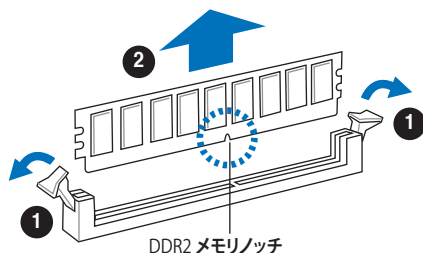
3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



2.5.3 DDR2 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぱります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。

2. スロットからメモリを取り外します。

2.6 拡張スロット

マザーボードは PCI 拡張スロットを 2 基搭載しています。位置はマザーボードのスロットに接続されている PCI ライザーカード上にあります。

2.6.1 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。



拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルをご覧になり、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。



システムに取り付ける PCI カードの長さは 150mm 以下である必要があります。

2.6.2 拡張カードの取り付け



拡張カードの追加や取り外しを行う前は、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷や、マザーボードコンポーネントの損傷の原因となります。

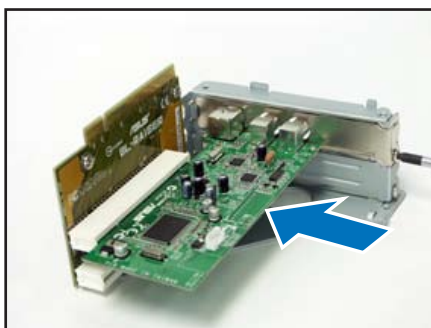
1. PCI ライザーカードアッセンブリーを持ち上げ、取り外します。



2. 使用するスロットのメタルカバーを取り外します。



3. カードのコネクタをスロットに挿入し、所定の場所に収まるまでしっかりと押し込みます。カードをネジで固定します。



4. PCIライザーカードアッセンブリーを再び取り付けます。ライザーカードコネクタが、マザーボード PCI スロットに正しく取り付けられていることを確認してください。



標準の割り込み割り当て

IRQ	標準機能
0	システムタイマー
1	キーボードコントローラ
2	IRQ#9 にリダイレクト
3	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
4	通信ポート (COM1)*
5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート (LPT1)*
8	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	PS/2 互換マウスポート *
13	数値データプロセッサ
14	プライマリ IDE チャンネル
15	セカンダリ IDE チャンネル

* 上記のIRQは ISA / PCI デバイスで使用されています。

本マザーボード用のIRQ割り当て

	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット 1	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCI スロット 2	—	共有	—	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 1	—	—	—	—	共有	—	—	—
オンボード USB コントローラ 2	—	共有	—	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 3	—	—	共有	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 4	—	—	—	共有	—	—	—	—
オンボード USB 2.0 コントローラ	—	—	—	—	共有	—	—	—
オンボード IDE ポート	—	—	共有	—	—	—	—	—
オンボード HD オーディオ	—	—	—	共有	—	—	—	—
オンボード LAN	共有	—	—	—	—	—	—	—



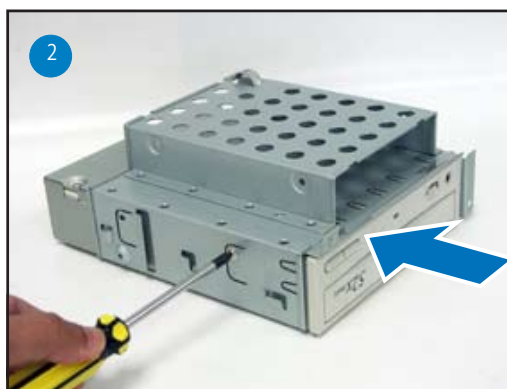
PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバがIRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する2つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなる場合があります。

2.7 光学ドライブ / ストレージドライブ取り付け用ケージを取り付ける

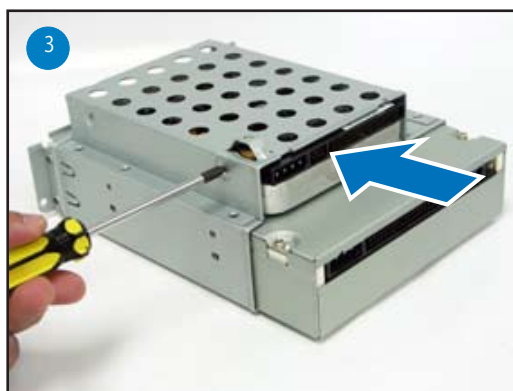
新しい光学ドライブを取り付ける場合は本セクションの手順をご参照ください。

光学ドライブを取り付ける手順

1. ストレージドライブ取り付け用ケージの上下を逆にし、5.25 インチベイの上に3.5 インチベイがある状態にします。
2. 光学ドライブを上下逆さまにして5.25 インチベイに挿入し、両側を2本のネジで固定します。



3. ハードディスクドライブを上下逆さまにして3.5 インチベイに挿入し、両側を2本のネジで固定します。



ストレージドライブ取り付け用ケージを取り付ける手順

ストレージドライブ取り付け用ケージを取り付ける前に、IDE/SATA ケーブルと電源プラグを、ドライブ背部にある IDE/SATA コネクタ・電源コネクタに接続します。

1. IDE ケーブルのブラックのプラグを光学ドライブに接続します。グレイのプラグをハードディスクドライブに接続します。SATA HDD をご使用の場合は、SATA ケーブルを SATA HD に接続します。
2. 4 ピン電源プラグを、ドライブ背部にある電源コネクタに接続します。
3. ストレージドライブ取り付け用ケージをケースに取り付けます。



4. ストレージドライブ取り付け用ケージを 3 本のネジで固定します。



2.8 フットスタンドを取り付ける

手順

1. フットスタンドのフックをケースの穴に合わせます。



2. ロックがカチッと締まるまで、フットスタンドを矢印の方向に引きます。



フットスタンドを取り外す場合はロックを持ち、ケースから外れるようにフットスタンドをバックパネルの方向に少し押します。

2.9 フロントパネルカバーを取り付ける

手順

1. フロントパネルカバータブをケース右側にある穴に取り付け、フロントパネルカバーを閉じます。



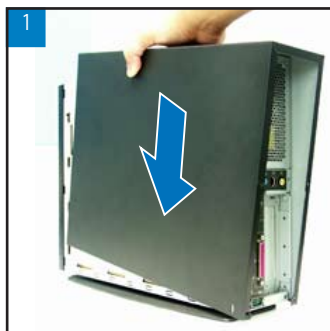
2. フロントパネルカバーフックをケースタブに差し込み、フロントカバーを正しく取り付けます。



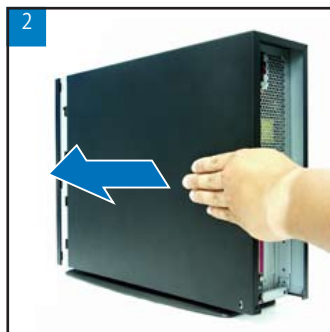
2.9 ケースカバーを取り付ける

手順

1. ケースカバーをケースに取り付けます。ケースカバーのタブがケースのレールにフィットするようにしてください。



2. ケースカバーが所定の位置に収まるまで、フロントパネルの方向に押しします。



3. ケースカバーを2本のネジで固定します。



Chapter 3

システムの電源を入れ、サポートCDからドライバやユーティリティをインストールする方法について



ASUS P1/P2-P5945GC

起動

3.1 OSをインストールする

本ベアボーンシステムは Windows® 2000/XP/Vista OS をサポートしています。ハードウェアの機能を最大限活用するために、OS を定期的にアップデートしてください。



マザーボードの設定とハードウェアのオプションは異なる場合があります。ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。

3.2 電源をオンにする

システム電源ボタン (⏻) を押して OS に入ります。



押してシステムをオンにします。

3.3 サポート CD 情報

システムに付属のサポート CD には、システムの機能を利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが収録されています。



- 画面表示とドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。
- サポート CD の内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) でご確認ください。

3.3.1 サポート CD を実行する

サポート CD を光学ドライブに入れます。OS の Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポートCDとマザーボードの情報を表示できます。

インストールする項目を選択



Autorun が有効になっていない場合は、サポート CD の BIN フォルダから ASSETUP.EXE を探してください。ASSETUP.EXE をダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

ASUS InstAll - Installation Wizard for Drivers

ASUS InstAll でドライバをインストールします。

Intel(R) Chipset Inf Update Program

Intel(R) Chipset Inf Update Program をインストールします。最初に Windows 2000 Service Pack 4/Windows XP Service Pack 1/Windows Vista をインストールしてください。

Intel(R) Graphics Accelerator Driver

Intel® グラフィックスアクセラレータードライバをインストールします。

SoundMAX AD1988B Audio Driver

SoundMAX AD1988B オーディオドライバをインストールします。

Realtek RTL8111B/C 10/100/1000M LAN Driver

Realtek RTL8111B/C 10/100/1000M LAN ドライバをインストールします。

3.3.2 ユーティリティメニュー

マザーボードで使えるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



ASUS InstAll-Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll でユーティリティをインストールします。

ASUS PC Probe II

ファンスピードとCPU 温度、システム電圧を監視し、問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えばコンピュータを常に正常な状態に維持することができます。

ASUS Update

Windows® 環境でマザーボード BIOS を更新するツールです。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。詳細はページ 5-8 をご覧ください。

ADOBE Acrobat Reader V7.0

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができるAdobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c Driver

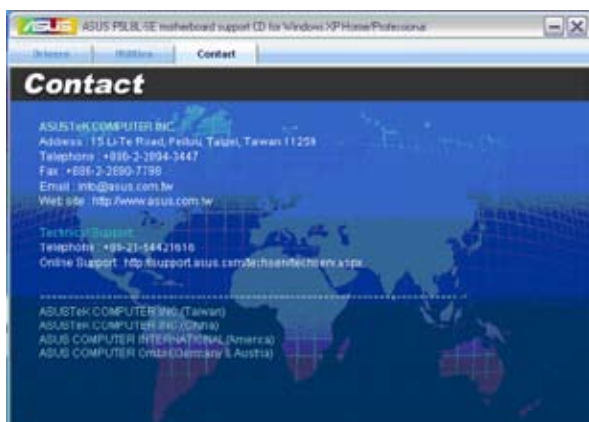
Microsoft® DirectX 9.0c ドライバをインストールします。

Anti-Virus Utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。

3.3.3 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーションです。



3.4 ソフトウェア情報

サポート CD のほとんどのアプリケーションはウィザードを使って簡単にインストールすることができます。詳細はオンラインヘルプまたはアプリケーションのReadme ファイルをご参照ください。

ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントを監視し、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度、システム電圧を中心に監視します。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時から監視を開始します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe II をインストールする

手順

1. サポート CD を光学ドライブに入れます。OS の Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバインストールタブが自動的に表示されます。



Autorun が有効になっていない場合は、サポート DVD ASUS PC Probe II フォルダから setup.exe を探してください。setup.exe をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. 「Utilities」タブ→「ASUS PC Probe II」の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでも PC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる：「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「PC Probe II」の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを起動・終了できます。












PC Probe II を使う

メインウィンドウ

PC Probe II メインウィンドウでは、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。初期設定値では **Preference** が表示されます。ウィンドウ右の三角をクリックすることで、**Preference** を閉じることができます。

三角をクリックして Preference を閉じる

ボタン	機能
	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

警告センサ

システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。



センサー用のモニターパネルも赤色になります。「ハードウェアモニターパネル」参照。

Preference

メイン画面の **Preference** で使用中のアプリケーションをカスタマイズすることができます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニターパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニターパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6角形(大)と長方形(小)です。**Preference**で「**Enable Monitoring Panel**」の項目にチェックした場合は、モニターパネルがデスクトップに表示されます。



6角形(大)



長方形(小)

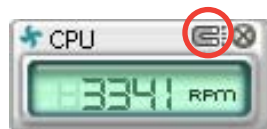
モニターパネルの位置を変える

モニターパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Scheme のボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。



モニターパネルを分解する

モニターパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。



センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。

長方形(小)のモニターパネルでは基準値を調節することはできません。

値を増やす

値を減らす



警告センサーモニター

コンポーネントの値が基準値以外になると赤色になります。



六角形 (大)



長方形 (小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation) ブラウザを表示します。様々な Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



PCI ブラウザ

PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。

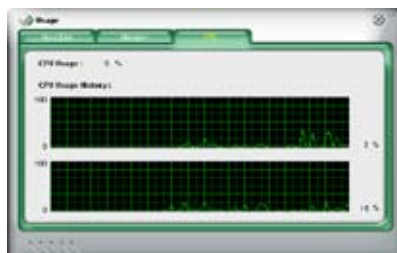


Usage

CPU、HDD空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。**USAGE** をクリックしてUsageを開きます。

CPU

リアルタイムのCPU使用率が線グラフで表示されます。CPUのHyper-Threading機能が有効に設定されている場合は、2つの論理プロセッサ用に2つの線グラフが表示されます。



Hard Disk

HDDの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



Memory usage

物理メモリの使用率を表示します。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



PC Probe II 設定

CONFIG をクリックしてセンサーの基準値を確認・調節します。

Config には2つのタブがあります:**Sensor/Threshold** と **Preference**です。**Sensor/Threshold** タブでは、センサーを有効にし、基準値を調節します。**Preference** タブでは警告センサーをカスタマイズし温度を変更します。



[illegible]

Chapter 4

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明



ASUS P1/P2-P5945GC

マザーボード情報

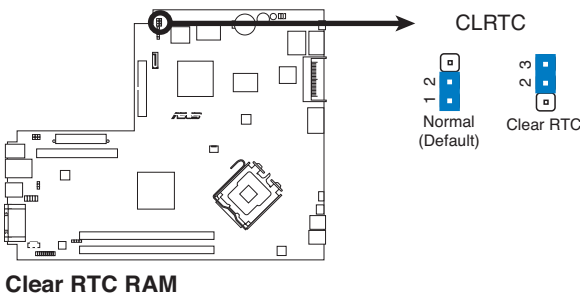
4.3 ジャンパ

1. RTC RAMのクリア (CLRRTC)

このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック (RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの維持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

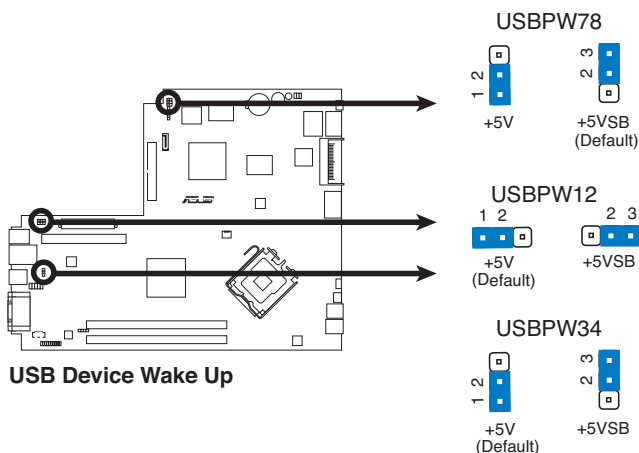
1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. ジャンパキャップをピン 1-2 (初期設定) からピン 2-3 に移動させます。5～10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。

2. USB デバイスウェイクアップ (3 ピン USBPW12、USBPW34、USBPW78)

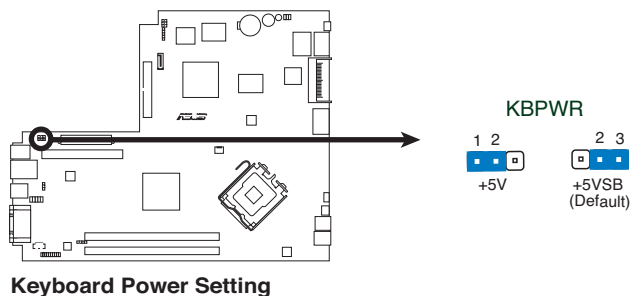
USB デバイスを利用して、S1 スリープモード (CPU 停止、DRAM リフレッシュ、低電力モードでのシステム稼働) からウェイクアップするには、+5V に設定します。S3 と S4 スリープモード (CPU への電源供給なし、スローリフレッシュの DRAM、省電力モードでの電源装置) からウェイクアップするには、+5VSB に設定します。



- USB デバイスウェイクアップ機能には、各 USB ポート用の +5VSB リード線に 500mA の電流供給ができる電源装置が必要です。それ以外ではシステムはウェイクアップしません。
- 総消費電流は、通常の条件でもスリープモードでも、電源装置の能力 (+5VSB) を超過してはいけません。

3. キーボード電源(3ピン KBPWR)

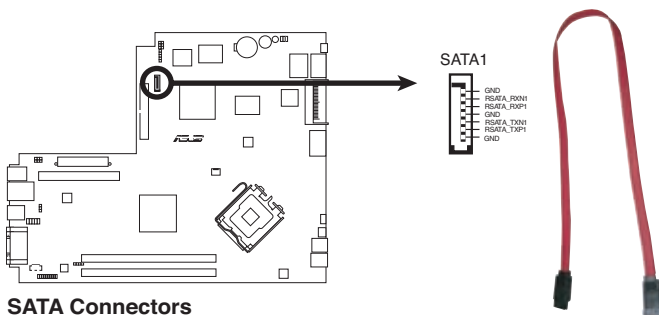
このジャンパはキーボードウェークアップ機能の切り替え用のジャンパです。キーボードのキーを押してコンピュータをウェークアップさせる場合は(初期設定はスペースバー)、このジャンパをピン 2-3 (+5VSB) にします。この機能には +5VSB リード線に最低 1A 供給可能な ATX 電源と BIOS 設定が必要です。



4.4 コネクタ

1. Serial ATA コネクタ

Serial ATA ケーブル用で Serial ATA ハードディスクドライブに使用します。

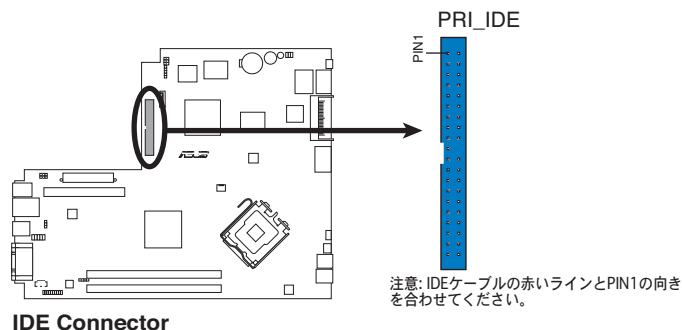


Serial ATA に関する注:

- Serial ATA ハードディスクドライブを使用する前に Windows® 2000 Service Pack 4、または Windows® XP Service Pack1 をインストールする必要があります。
- コネクタを **Standard IDE** モードで使用する場合、プライマリ (ブート) ハードディスクドライブを SATA1 コネクタに接続してください。

2 IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE)

Ultra DMA 100/66/33 ケーブル用です。各 Ultra DMA 100/66/33 ケーブルにはブルー、ブラック、グレーの3つのコネクタがあります。マザーボードのIDEコネクタにはブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。



	ドライブジャンパ 設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	Cable-Select / マスター	-	ブラック
デバイス 2 台	Cable-Select	マスター スレーブ	ブラック グレー
	マスター スレーブ	マスター スレーブ	ブラック/グレー



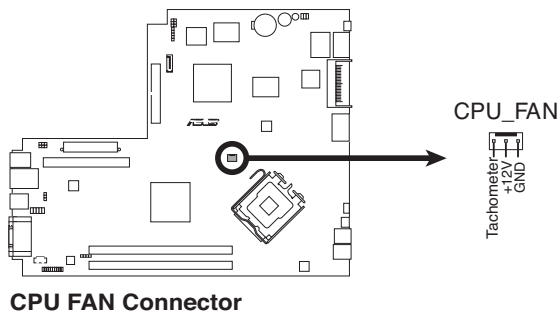
- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 100/66/33 IDE デバイスの場合は、80ピンタイプのIDEケーブルを使用します。



あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。

3. CPU ファンコネクタ (3 ピン CPU_FAN)

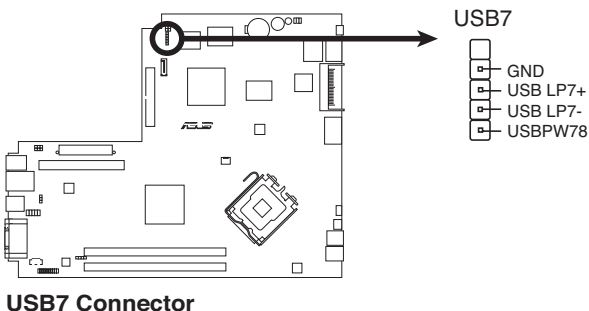
ファンコネクタは+12Vで、350 mA~740 mA (最大 8.88 W) またはトータルで 1 A~2.22 A (最大 26.64 W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。

4. USB コネクタ (5-1 ピン USB7)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USB/GAME モジュールケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



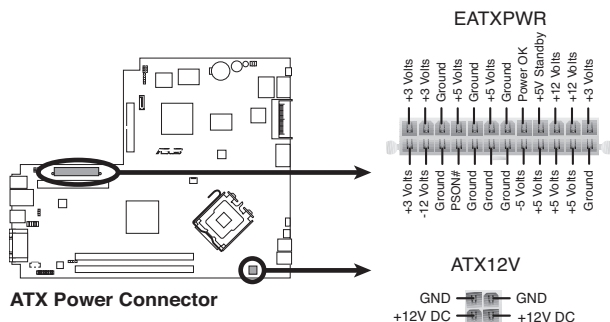
1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



USB モジュールは別売りとなっております。

5. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、4ピン ATX12V)

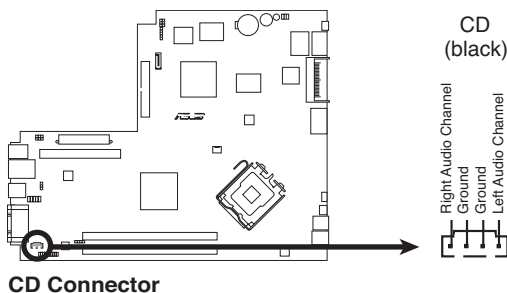
ATX電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。



- 4ピン ATX +12 V プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源装置の使用をお勧めします。電源装置の能力が不十分だと、システムが不安定になる、またはシステムが起動できなくなる等の問題が発生する場合があります。
- ご使用の電源装置が、少なくともシステムが必要とする電源を供給できることをご確認ください。

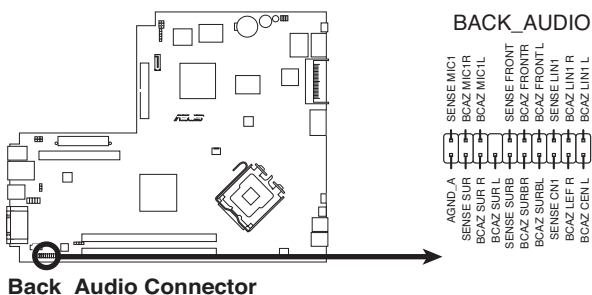
6. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD)

CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースより、ステレオオーディオ入力ができます。



このコネクタを使用する場合は、オーディオユーティリティで CD-IN を有効にしてください。

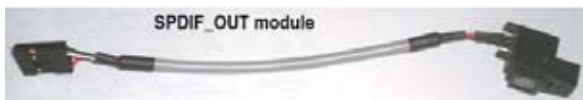
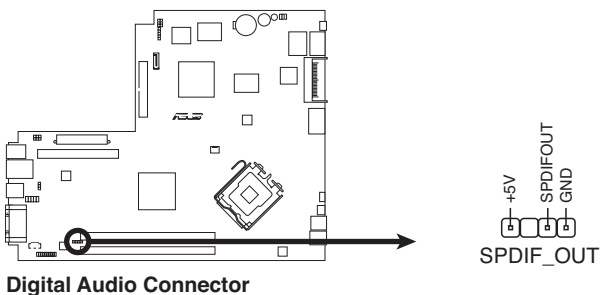
7. バックオーディオコネクタ (20-1 ピン Back_Audio Connector)



マザーボードのHD オーディオを利用するには、HD フロントパネルオーディオモジュールをこのコネクタに接続することをお勧めします。

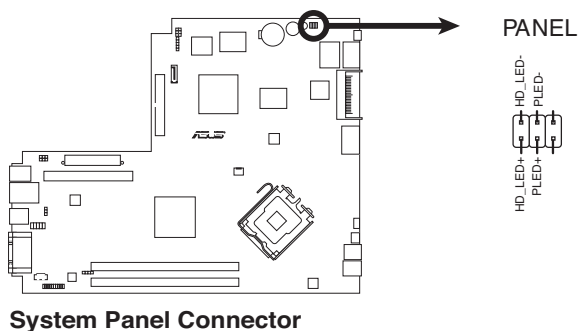
8. デジタルオーディオコネクタ (4-1 ピン SPDIF_OUT)

このコネクタは追加のS/PDIFポート用で、S/PDIF モジュールケーブルをこのコネクタに接続します。



S/PDIF モジュールは別売りとなっております。

9. システムパネルコネクタ (6 ピン PANEL)



詳細は以下のコネクタの説明をご参照ください。

- **システム電源 LED (2ピン PLED)**
システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- **HDD Activity (2ピン HDLED)**
HDD Activity LED 用です。HDD Activity LED ケーブルを接続してください。IDE LED、HDD でデータの読み書きが行われているときに点灯するか点滅します。
- **電源/ソフトオフボタン (2ピン PWRSW)**
システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。また BIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを押すと、システムの電源はオフになります。
- **リセットボタン (2ピン RESET)**
ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

Chapter 5

BIOS セットアップメニューでのシステム
設定、変更方法、BIOS パラメータの説明



BIOS のセットアップ

5.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. **ASUS EZ Flash** (POST 時にマザーボードサポート CD を使用して BIOS を更新)
2. **ASUS AFUDOS** (USB フラッシュメモリを使用して DOS モードで BIOS を更新)
3. **ASUS CrashFree BIOS 2** (BIOS がダメージを受けた場合、マザーボードサポート CD を使用して BIOS を更新)
4. **ASUS Update** (Windows® 環境で BIOS を更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをにコピーしてください。BIOS のコピーには ASUS Update または AFUDOS を使用します。

5.1.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 は、DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですので、システム起動時の自己診断テスト (POST) 中に、<Alt> + <F2> を押すことで起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、最新の BIOS ファイルをダウンロードします。またはサポート CD から入手できます。
2. BIOS ファイルを USB フラッシュメモリに保存し、システムを再起動します。
3. POST 中に <Alt> + <F2> を押します。

BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が BIOS をアップデートし、システムが自動的に再起動されます。



BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

5.1.2 AFUDOS

AFUDOS ユーティリティは、BIOS ファイルを保存した USB フラッシュメモリを使用して、DOS 環境で BIOS ファイルを更新します。また、このユーティリティで現在の BIOS ファイルをバックアップ用に保存しておくこともできます。

現在のBIOSをコピーする

AFUDOS ユーティリティを使用して現在の BIOS ファイルをコピーします。



- USB フラッシュメモリはファイルを保存するために少なくとも 1024KB の空き容量が必要です。
- 説明で使用している BIOS の画面は一例です。実際の BIOS 画面とは、異なる場合があります。

1. マザーボードサポート CD 内に収録された AFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) を USB フラッシュメモリにコピーします。
2. DOS モードでシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

afudos /o[filename]

[filename]は自由に決めることができます。入力可能な名前は、8文字以下の英数字のファイル名と3文字の英数字の拡張子です。

```
A:\>afudos /oOLD BIOS1.rom
```

ファイル名 拡張子

3. <Enter>を押します。現在の BIOS ファイルが USB フラッシュメモリにコピーされます。

```
A:\>afudos /oOLD BIOS1.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19 (ASUS V2.07 (03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.
Reading flash ..... done
Write to file..... ok
A:\>
```

BIOS ファイルがコピーされると、DOS プロンプトに戻ります。

BIOSファイルを更新する

AFUDOSユーティリティを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、USB フラッシュメモリに保存してください。



BIOSファイル名は紙などに書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

2. マザーボードサポート CD 内に収録されたAFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) を USB フラッシュメモリにコピーします。
3. DOS モードでシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

afudos /i [filename]

[filename] は、BIOS ファイル名です。

```
A:\>afudos /iP5L8LSE.ROM
```

4. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。

```
A:\>afudos /iP5L8LSE.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOS の更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムエラーの原因となります。

5. BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /iP5L8LSE.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... done
Verifying flash .... done

Please restart your computer

A:\>
```

5.1.3 ASUS CrashFree BIOS 2

ASUS CrashFree BIOS 2 は BIOS の自動復旧ツールで、BIOS 更新時に障害を起こした場合や破損した BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOS ファイルはサポート CD、または BIOS ファイルを保存した USB フラッシュメモリで更新することができます。



- このユーティリティを使用する前に、サポート CD または BIOS を保存した USB フラッシュメモリをお手元にご用意ください。
- USB フラッシュメモリ内のオリジナル / 更新済みの BIOS ファイルは「P5L8LSE.ROM」にファイル名を変更してください。

USB フラッシュメモリから BIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. USB フラッシュメモリを PC にセットします。
3. 下のメッセージが表示され、USB フラッシュメモリのオリジナル / 更新済みの BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



ディスプレイモニターが オンボード VGA コネクタに接続されている場合、CrashFree BIOS 2 がシステムの更新を開始すると、ディスプレイモニタがオフになり、システムが一度警告音を発します。更新が完了すると、システムがもう一度警告音を発し、システム再起動後にディスプレイが元に戻ります。

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P5L8LSE.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOS の更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムエラーの原因となります。

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。

サポート CD から BIOS を復旧する

手順

1. サポート CD を光学ドライブに挿入します。
ユーティリティがオリジナル/更新済みの BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Checking for CD-ROM...  
CD-ROM found!  
Reading file "P5L8LSE.ROM". Completed.  
Start flashing...
```



BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。



復旧した BIOS は、本マザーボード用の最新の BIOS バージョンではない場合があります。最新の BIOS ファイルは ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) でダウンロードできます。

5.1.4 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- 現在の BIOS ファイルを保存する
- インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- 最新のBIOSファイルにBIOSを更新する
- インターネットから直接BIOSを更新する
- BIOSのバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート CD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。ドライブメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「Install ASUS Update」をクリックします。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。



このユーティリティを使用して BIOS を更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューから、「Update BIOS from the internet」を選択し、「Next」をクリックします。



3. 最寄りの ASUS FTP サイトを選択するか、「Auto Select」をクリックし、「Next」をクリックします。

- ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「**Next**」をクリックします。
- 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。



BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

- スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
- ドロップダウンメニューから「**Update BIOS from a file**」を選択し、「**Next**」をクリックします。



- OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「**Open**」をクリックします。
- 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



5.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアチップを搭載しており、「5.1 BIOS 管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新を行うことが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または“Run Setup”を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にする、または、電源管理設定を変更することができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、ファームウェアハブの CMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブには BIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

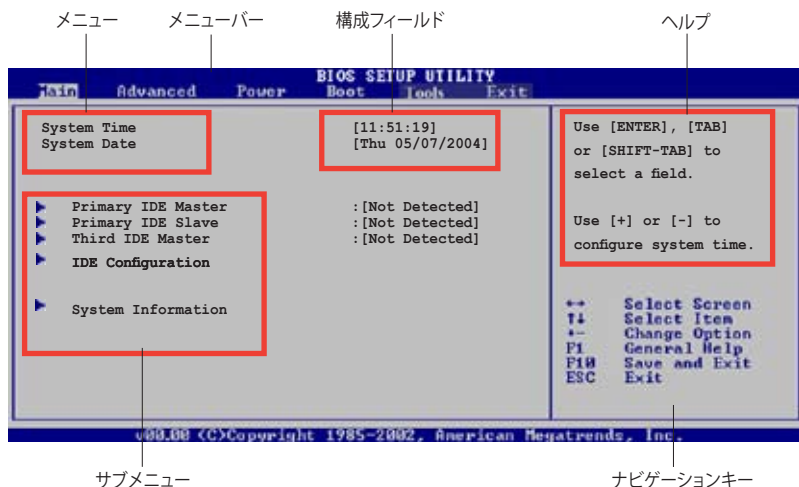
POSTの終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールしたり、使用可能なオプションから設定を選択したりすることができます。



- このマザーボードの BIOSの初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、終了メニューの下「Load default Setting」を選択します。(詳細は「5.2 終了メニュー」をご参照ください)
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

5.2.1 BIOSメニュー画面



5.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Tools	EZ Flash 2 と O.C. Profile の設定用
Exit	終了オプションと初期設定値のロード用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

5.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

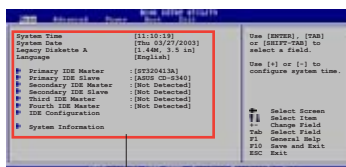


ナビゲーションキーの中には画面ごとに異なるものがあります。

5.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

5.2.5 サブメニュー

サブメニューがある項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

5.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が不可能でない項目は、選択することができません。

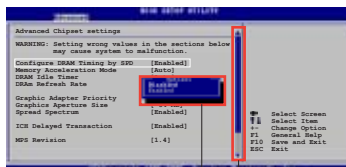
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「5.2.7 ポップアップウィンドウ」をご参照ください。

5.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

5.2.8 スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または <Page Up>/<Page Down> キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

5.2.9 ヘルプ

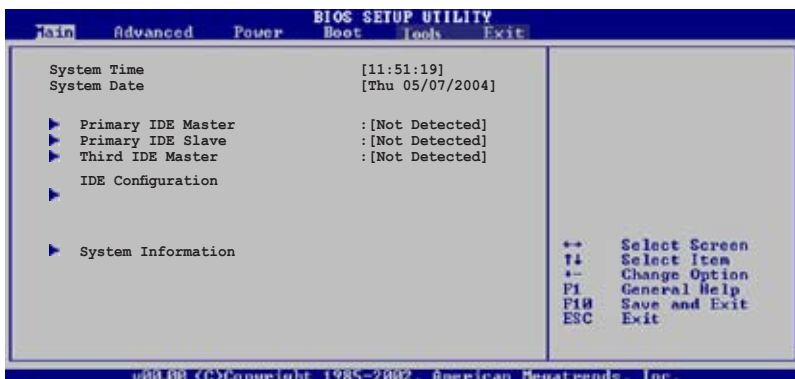
メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

5.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「5.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。



5.3.1 System Time [xx:xx:xxxx]

システム時間を設定します。

5.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

5.3.3 プライマリ、サードIDE マスター /スレーブ

セットアップ中に BIOS は自動的に IDE デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。



BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART monitoring の各値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに IDE デバイスが接続されていない場合は N/A と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切な IDE デバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は[CDROM]を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス)を選択します。

設定オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの設定。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBA モードが有効になります。デバイスが LBA モードでフォーマットされていない場合は無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) [Auto]

マルチセクタ転送の設定。[Auto]に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled]に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

設定オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMA モードを設定します。

設定オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

SMARTによる監視、分析、報告機能を設定します。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

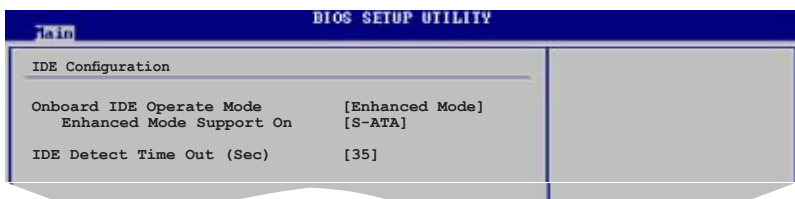
32Bit Data Transfer [Enabled]

32 bit データ転送を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.3.4 IDE Configuration

IDE デバイスの設定を変更します。設定を変更したい項目を選択し <Enter>を押します。



Onboard IDE Operate Mode [Enhanced Mode]

インストールしているOSにより、IDEオペレーションモードを設定します。Windows® 2000/XP/Vista などのネイティブ OS を使用している場合、[Enhanced Mode]に設定します。

設定オプション: [Disabled] [Compatible Mode] [Enhanced Mode]

Enhanced Mode Support On [S-ATA]

初期設定 [S-ATA]に設定すると、ネイティブ OS を Serial ATA / Parallel ATA ポートで使用することができます。より良い OS 互換性のため、初期設定をご使用になることをお勧めします。初期設定では、Serial ATA デバイスを取り付けていない場合、レガシー OS を Parallel ATA ポートでのみ使用することができます。

[P-ATA+S-ATA] と [P-ATA] オプションは上級ユーザー向けです。これらのオプションに設定し問題が生じた場合、初期設定 [S-ATA] に戻してください。

設定オプション：[S-ATA+P-ATA] [S-ATA] [P-ATA]

IDE Detect Time Out [35]

ATA/ATAPI デバイスの検出用にタイムアウトを設定します。

設定オプション：[0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

5.3.5 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。



AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

System Memory

自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

5.4 拡張メニュー

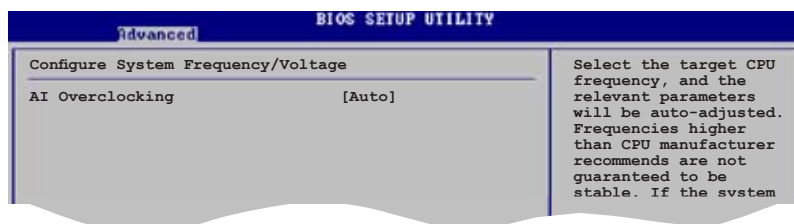
CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



5.4.1 JumperFree Configuration



AI Overclocking [Auto]

CPUオーバークロックオプションを選択してCPU内部周波数を設定することができます。

Overlock Profile - 個別にオーバークロックパラメータを設定することができます。

Auto - システムに対して最適な設定をロードします。

Standard - システムに対して標準的な設定にします。



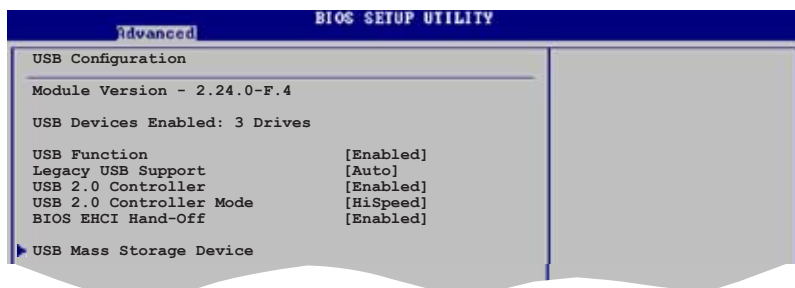
次の項目は「**AI Overclocking**」の項目を [Overlock Profile] に設定すると表示されます。

Overlock Options [Overlock 5%]

設定オプション: [Overlock 5%] [Overlock 10%]

5.4.2 USB 設定

USB関連の機能を変更することができます。項目を選択し <Enter> を押して設定オプションを表示させてください。



「**Module Version**」と「**USB Devices Enabled**」の項目には自動検出した値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB Function [Enabled]

USB の各機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Legacy USB Support [Auto]

レガシーUSB デバイスの設定です。[Auto] に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシー USB のサポートは無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0 コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

USB 2.0 コントローラのモードを設定します。HiSpeed (480 Mbps) または FullSpeed (12 Mbps) から選択します。

設定オプション: [HiSpeed] [Full Speed]

BIOS EHCI Hand-off [Enabled]

[Enabled]に設定することによって、EHCI ハンドオフ機能のない OS でも問題なく動作させることができます。

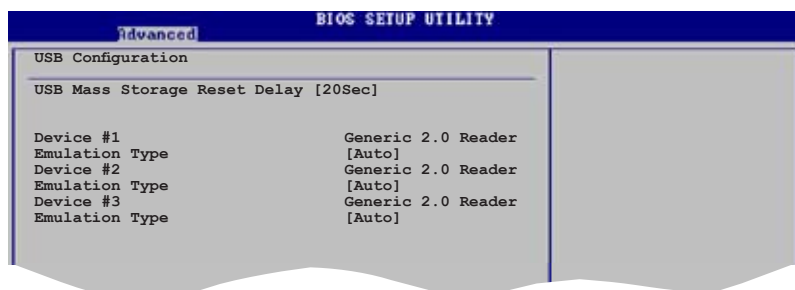
設定オプション: [Enabled] [Disabled]



USB デバイスを使用して Windows® OS を実行している場合、「BIOS EHCI Hand-off」オプションを無効にしないでください。

USB Mass Storage Device

USB マスストレージクラスデバイスを設定します。



USB Mass Storage Reset Delay [20 Sec]

ユニットのコマンド開始後に、POST がUSB マスストレージクラスデバイスを待つ時間を設定します。

設定オプション: [10 Sec] [20 Sec] [30 Sec] [40 Sec]

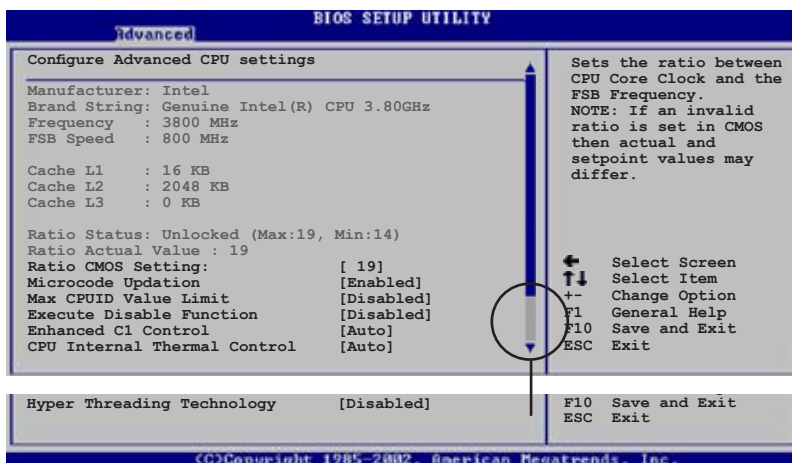
Emulation Type [Auto]

[Auto] に設定時、530 MB より小さい USB デバイスはフロッピーとしてエミュレートされ、その他のデバイスはハードドライブとして認識されます。[Forced FDD] オプションは、HDD フォーマットされたドライブを FDD (例: ZIP ドライブ) として起動させることができます。

設定オプション: [Auto] [Floppy] [Forced FDD] [Hard disk]

5.4.3 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。



Ratio CMOS Setting [19]

CPU コアクロックとフロントサイドバスクロック間の倍率を設定します。この項目の初期設定値は BIOS により自動検出されます。

Microcode Updation [Enabled]

マイクロコードの更新の有効/無効を切り替えます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Max CPUID Value Limit [Disabled]

[Enabled] に設定すると、拡張 CPUID 機能非対応 CPU でもレガシーオペレーティングシステムを起動することができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Execute Disable Function [Disabled]

Execute Disable 機能を設定します。この項目は Execute Disable 機能を搭載したプロセッサを取り付けている場合のみ表示されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Enhanced C1 Control [Auto]

[Auto] に設定すると BIOS は自動的に CPU の機能をチェックし、C1E サポートを有効にします。C1E モードでは、CPU の電力消費はアイドル時より低くなります。

設定オプション: [Auto] [Disabled]

CPU Internal Thermal Control [Auto]

CPU の内部熱制御機能に関する設定です。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

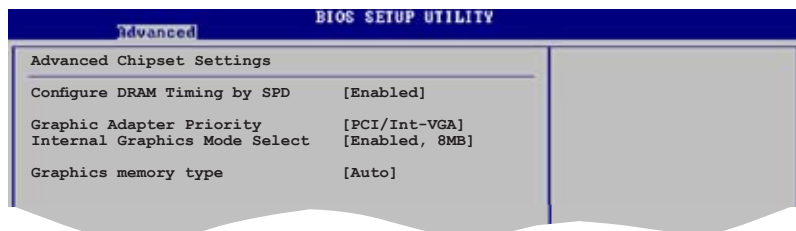
Hyper-Threading Technology [Disabled]

プロセッサの Hyper-Threading Technology を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.4.4 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter>を押すとサブメニューを表示させることができます。



Configure DRAM Timing by SPD [Enabled]

この項目を有効にすると、DRAM タイミングパラメータは DRAM SPD に従って設定されます。無効にすると、DRAM サブアイテムを通して DRAM タイミングパラメータを手動で設定できます。以下のサブアイテムは、本項目を「Disabled」に設定すると表示されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

DRAM CAS# Latency [5 Clocks]

DDR SDRAM の読み取り、または書き込みコマンドを発行してから、データを実際に読み書きできるようになるまでの待ち時間を設定します。

設定オプション: [6 Clocks] [5 Clocks] [4 Clocks] [3 Clocks]

DRAM RAS# Precharge [4 Clocks]

プリチャージコマンドを DDR SDRAM に発行した後の待ち時間を設定します。

設定オプション: [2 Clocks] [3 Clocks] [4 Clocks] [5 Clocks] [6 Clocks]

DRAM RAS# to CAS# Delay [4 Clocks]

DDR SDRAM の RAS 信号から CAS 信号への切り換えに必要な待ち時間を設定します。

設定オプション: [2 Clocks] [3 Clocks] [4 Clocks] [5 Clocks] [6 Clocks]

DRAM RAS# Activate to Precharge [15 Clocks]

RAS Activate タイミングを Precharge タイミングに設定します。

設定オプション: [4 Clock] [5 Clocks] ~ [18 Clocks]

DRAM Write Recovery Time [4 Clocks]

DRAM Write Recovery Time を設定します。

設定オプション: [2 Clocks] [3 Clocks] [4 Clocks] [5 Clocks] [6 Clocks]

Graphic Adapter Priority [PCI/Int-VGA]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックコントローラを選択します。
設定オプション: [Internal VGA] [PCI/Int-VGA]

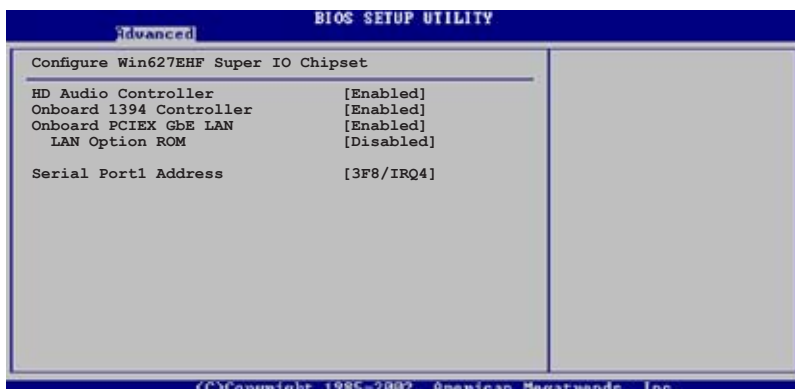
Internal Graphics Mode Select [Enabled, 8MB]

内部グラフィックモードの設定を切り替えます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled, 1MB] [Enabled, 8MB]

Graphics memory type [Auto]

グラフィックメモリタイプを設定します。
設定オプション: [Auto] [DVMT] [FIX] [DVMT+FIX]

5.4.5 オンボードデバイス設定構成



HD Audio Controller [Enabled]

Azalia/AC'97 CODEC を設定します。
設定オプション: [Enabled] [Disabled]

OnBoard 1394 Controller [Enabled]

オンボード 1394 コントローラを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard PCIEX GbE LAN [Enabled]

オンボード PCI Express Gigabit LAN コントローラを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

LAN Option ROM [Disabled]

オンボード LAN コントローラのオプション ROM を設定します。この項目は「Onboard PCIEX GbE LAN」の項目を [Enabled] にすると表示されます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを選択します。

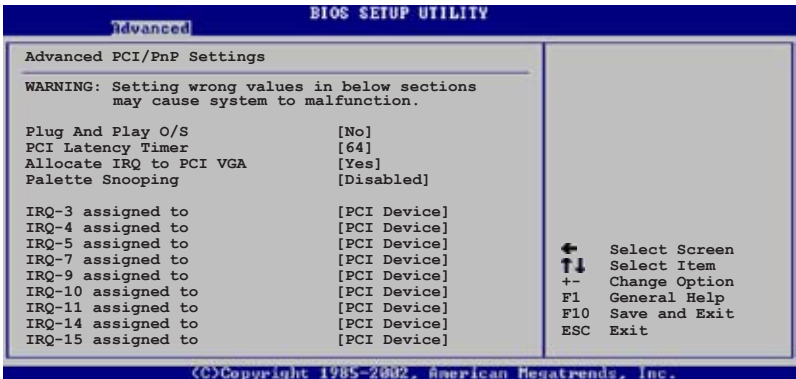
設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

5.4.6 PCI PnP

PCI PnPメニューアイテムによって、PCI/PnPデバイスの詳細設定を変更できます。PCI/PnPまたは古いタイプのISA デバイスに対しては IRQ と DMA チャンネルリソースの設定ができ、また古いタイプのISAデバイスに対してはメモリサイズブロックの設定が含まれます。



PCI PnP メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



Plug and Play O/S [No]

[No] にすると、システム内の全てのデバイスはBIOSにより構成されます。[Yes] にし、Plug and Play OSをインストールしている場合は、起動に不要な Plug and Play デバイスは全てOSにより構成されます。

設定オプション: [No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCI デバイスレイテンシタイマーレジスタ用の PCI クロックの値を設定します。

設定オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

Yes] に設定すると、カードが IRQを要求した場合に BIOS は IRQ を PCI VGA カードに割り当てます。[No] に設定すると、要求されてもBIOS はIRQ を PCI VGA カードに割り当てません。

設定オプション: [No] [Yes]

Palette Snooping [Disabled]

[Enabled]に設定すると、パレットスヌープ機能は ISAグラフィックスデバイスが正しく機能するように、デバイスがシステムに取り付けられていることをPCIデバイスに通知します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IRQ-xx assigned to [PCI Device]

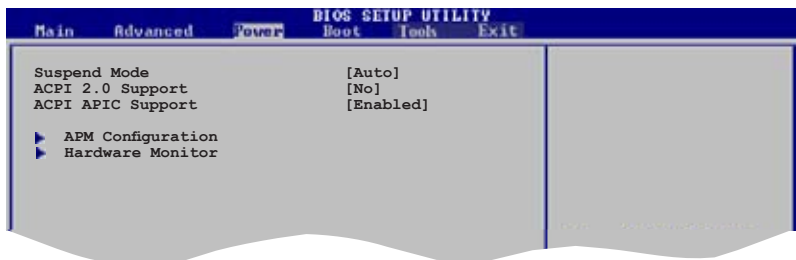
[PCI Device]に設定すると、特定の IRQ が PCI/PnP デバイスを自由に使用します。

[Reserved]に設定すると、IRQ はレガシー ISA デバイス専用になります。

設定オプション: [PCI Device] [Reserved]

5.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



5.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。

設定オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

5.5.2 ACPI 2.0 Support [No]

ACPI 2.0仕様への対応を選択できます。

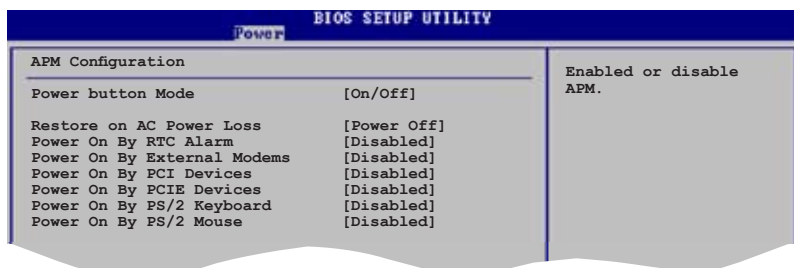
設定オプション: [No] [Yes]

5.5.3 ACPI APIC Support [Enabled]

ASIC が ACPI をサポートするかどうかを設定します。[Enabled] に設定すると、ACPI 設定内のRSDT ポインタリストにAPIC テーブルのポインタが追加されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.5.4 APM の設定



Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンの機能を設定します。

設定オプション: [On/Off] [Suspend]

Restore on AC Power Loss [Power Off]

[Power Off]に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On]に設定すると、再通電時に電源をオンにします。[Last State]に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。

設定オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを作成する RTC を設定します。この項目を [Enabled] に設定すると、アラームの日時が設定値と共に表示されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行するまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On By PCI Devices [Disabled]

この項目を [Enabled] に設定すると、PCI 接続の LAN、モデムカードを通してシステムをオンにすることができます。この機能は +5V SB リード線で最低 1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PCIE Devices [Disabled]

[Enabled] に設定すると、PCI Express LAN カードを使用してシステムをオンにすることができます。この機能は +5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は +5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Space Bar] [Ctrl-Esc] [Power Key]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定すると、PS/2 マウスを使用してシステムの電源をオンにすることができます。この機能は +5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.5.5 ハードウェアモニタ



AI Quiet [Disabled]

自動的にBIOS 設定を最適化し、システムの不可に応じて CPU ファンの速度を最小化します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

CPU Temperature [xxx°C/xxx°F]

MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

オンボードハードウェアモニタは マザーボードとCPUの温度を自動的に検出して表示します。[Ignored]にすると表示されなくなります。

設定オプション: [Ignored] [xxx°C/xxx°F]

CPU Fan Speed [xxxxRPM]、[N/A]、[Ignored]

CPUファンスピードを自動的に検出して回転数/分 (RPM) の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには[N/A] と表示されます。

設定オプション: [Ignored] [xxxRPM]

CPU Q-Fan Control [Disabled]

ファンの速度を素早く調整しシステムをより効率的に作動させる、ASUS Q-Fan 機能の有効/無効を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

VCORE Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage

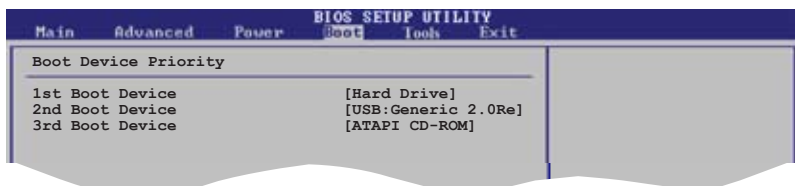
オンボード電圧レギュレータを通じ、自動的に電圧出力を検出して表示します。

5.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter>を押してサブメニューを表示します。

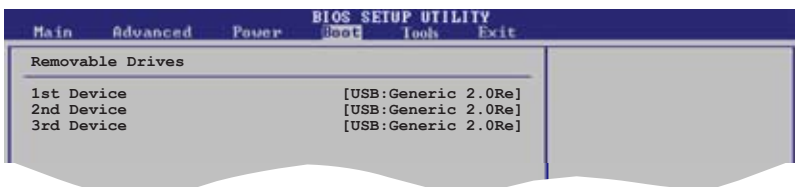


5.6.1 ブートデバイスの優先順位



5.6.2 Removable Drives

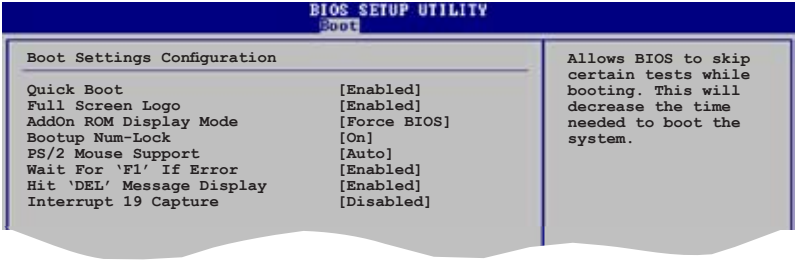
利用可能なリムーバブルドライブからブートデバイスの優先順位を指定します。



1st ~ 4th Device [USB:Generic 2.0Re]

設定オプション: [USB: Generic 2.0 Reader] [USB: Generic-Compact]
[USB: Generic-SM/xD-Picture] [USB: Generic -SD/MMC] [USB: Generic -MS/MS Pro]
[Disabled]

5.6.3 起動設定



Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo™ 機能をご利用になる場合は「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] に設定してください。

Add On ROM Display Mode [Force BIOS]

オプション ROM に対するディスプレイのモードを設定します。
設定オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。
設定オプション: [Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2 マウスのサポートを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

[Enabled] に設定するとシステムはエラー発生時に<F1> キーを押すまで待機します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

[Enabled] に設定すると、POST 中に「Press DEL to run Setup (Delete キーでBIOSメニューを表示)」というメッセージが表示されます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

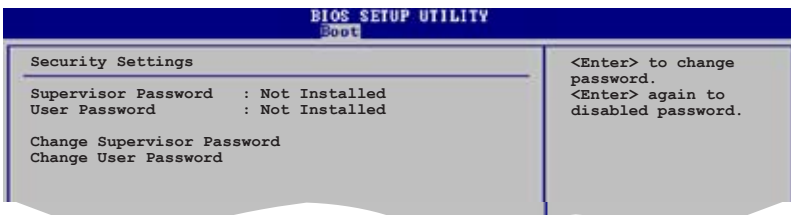
Interrupt 19 Capture [Disabled]

[Enabled] に設定すると、オプションROM (SCSI や IDE RAID の BIOS等) が Int 19 を検出可能になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.6.4 セキュリティ

システムセキュリティ設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。



Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「Supervisor Password」は、初期設定値は「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

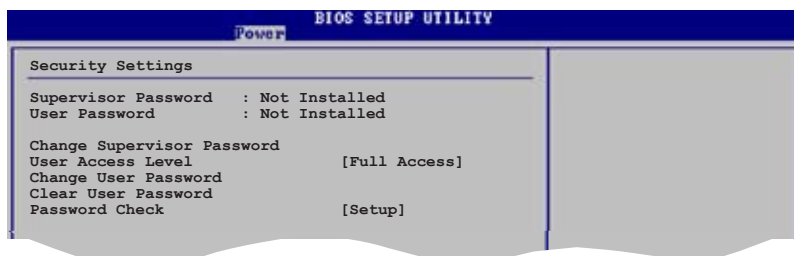
管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter>を押します。消去すると「Password Uninstalled」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、ページ 4-3「[4.3 ジャンパ](#)」のページをご参照ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。



User Access Level [Full Access]

BIOSメニューへのアクセス制限の選択。

設定オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access]、BIOSメニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only]、アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited]、日時など、限られた設定のみを変更することができます。

[Full Access]、すべての項目を表示、変更することができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「User Password」は初期設定値では「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「Change User Password」を選択し、<Enter>を押します。
 2. 「password box」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
 3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。
- パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

ユーザーパスワードをクリアします。

Password Check [Setup]

この項目を[Setup]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。

設定オプション: [Setup] [Always]

5.7 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。Exit メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit」メニューからこのオプションを選択し、設定をCMOS RAMに保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保存します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「Ok」を選択すると、変更を保存して終了します。



変更を保存せずにBIOSメニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復旧します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「Ok」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5>を押すと確認画面が表示されます。「Ok」を選択して初期設定値をロードします。「Exit & Save Changes」を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。